

さぬきの授業 基礎・基本

～ 子どもに学びのときめきを～



平成25年3月
香川県教育委員会

目 次

| | |
|------------------------------|----|
| 教師の心構え | 1 |
| ◆ 教師の最も重要な仕事は授業です | |
| I | |
| 1 教師の表情、話し方 | 2 |
| ◆ 先生、いつも明るく楽しそう！ | |
| 2 発問・助言 | 3 |
| ◆ 先生、その一言で「ハッ」と気付いた！ | |
| 3 指名の仕方 | 5 |
| ◆ 先生、みんなの前で発言すると楽しい！ | |
| 4 発言（考え）の取り上げ方 | 6 |
| ◆ 先生、つなげて考えていくことが大事なんだ！ | |
| 5 机間指導 | 7 |
| ◆ 先生、○を付けてくれたので、自信をもって発表できた！ | |
| 6 板書 | 8 |
| ◆ 先生、黒板を見ると、今日の授業が振り返れる！ | |
| 7 ノート指導 | 10 |
| ◆ 先生、励ましのコメントがうれしい！ | |
| 8 グループ学習 | 12 |
| ◆ 先生、これはグループだからできるんだ！ | |
| II | |
| 1 「考える力」を育てる指導 | 14 |
| ◆ 先生、そう考えるといいんだ！ | |
| 2 「話し合う力」を育てる指導 | 16 |
| ◆ 先生、話し合うと考えが深まった！ | |
| 3 個に応じた指導 | 18 |
| ◆ 先生、その方法、私にぴったり！ | |
| 授業づくりを支える学級経営チェックリスト | 21 |
| 発刊に寄せて | |

教師の心構え

教師の最も重要な仕事は授業です

☆ 責任感と緊張感をもって授業に臨む。

- 「できた、分かった」という喜びは、子どもの成長のエネルギーとなります。学ぶことの楽しさを指導してくれる教師に子どもや保護者は信頼を寄せます。
- 教師には、子どもに分かる授業をするために最大限の努力をする責任があります。
- 子どもにとって、その授業は一生に一度きりです。教材研究や準備を十分に、緊張感をもって授業に臨みましょう。



☆ 子ども理解に基づいた教材研究をする。

- 子どもは、誰もが「分かりたい」「できるようになりたい」という気持ちをもっています。
- 一人一人に個性があるように、つまずき方はそれぞれ異なっており、その原因や背景があります。教師の支援によって、つまずきを克服した子どもは、さらに次のステップに挑戦しようとしています。
- 学習目標を具体的に設定し、子どもが「何を」「どのように考え」「どうすることができるようになることを目指すのか」「つまずきにどう対処するのか」などについて事前に教材研究することが大切です。

☆ 常に授業技術の向上に努める。

- 自分が「知っていること」「できること」と、「指導すること」は別物です。子どもの主体的な学びを引き出すように指導するためには、授業技術が必要です。
- 自分から進んで、先輩、同僚、書籍などから学ぶ機会をつくり、実践することにより授業技術を高めていきましょう。

〈参照〉 新しく教員となったみなさんへ (香川県教育委員会)
授業力向上のために (香川県教育センター)



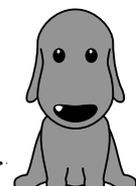
☆ 授業を見る、授業を見せる。

- 校内で日々の授業を気軽に見せ合い、学び合きましょう。
- 授業を見る場合も、見せる場合も、視点や課題をしっかりとっておくことが大切です。
- よい授業を見る機会を、自分から求めていきましょう。

子どもの「やる気」に火をつける、先生のがんばる姿！

教師が苦手なことや苦しいことに挑戦する姿を見せましょう。また、教材研究や資料準備への熱意を見せることも「やる気」を高めます。「凡庸な教師はただしゃべる。良い教師は説明する。優れた教師はやって見せる。偉大な教師は子どもの心に火をつける。」(ウィリアム・アーサー・ワード)

わん！ポイント！



I-1 教師の表情、話し方

先生、いつも明るく楽しそう！

☆ 教師の表情は指導力の一部です。

授業が始まれば、まず、子どもは教師の表情に注目します。



教師の表情は、子どもの学習意欲に影響を与えます。

授業中の教師の豊かな表情は学習意欲を引き出します。

無表情であったり、いつも気難しく不機嫌な表情では、子どもの学習意欲を引き出すことはできません。教師の表情は指導力の一部です。

自分がどんな表情で授業をしているか知っていますか？

自分のことを一番知らないのは、自分かもしれません。

- ◆ 授業中の表情を録画してみましょう。
- ◆ 授業に行く前に、鏡をのぞいてみましょう。



☆ 自分の話し方をチェックしてみませんか。

- 声の大きさや話すスピードは適当か。(1分間に300字程度)
- 内容や場面に応じて、抑揚、強弱、高さ、「間」のとり方に配慮しているか。
- 子どもの表情を見て、反応を確かめながら話しているか。
- 繰り返しや念押しをしたり、子どもに考える時間を与えたりしながら話しているか。
- 身振りや手振りを交えて話しているか。
- 肯定的な温かい言葉、共感的で親しみの湧く言葉を使うよう心がけているか。
- 子どもの発達段階に合わない抽象的な難しい語を使っていないか。
- 一つの文をだらだら長くしないで、短い文で簡潔に話しているか。
- 「あの一」「えー」などの不要な言葉を多く使っていないか。

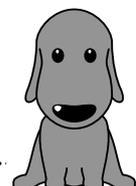
- ◆ 大切なのは、「間」を取ってから、ゆっくりと低い声で話しましょう。
- ◆ 授業を録音してみましょう。自分の話し方の長所と短所がよく分かります。

鏡に映る自分！

「人は鏡の前が一番よい表情をする。」という言葉があります。一般企業に勤める人に比べて、教師は鏡を見る回数が少ないと言われています。

授業に行く前に、鏡をのぞいて笑顔をつくってみませんか。子どもたちの「やる気」を引き出すだけでなく、教師の心のリセットにもなります。

わん！ポイント！



I-2 発問・助言

先生、その一言で「ハッ」と気付いた！

☆ 学習指導過程に沿って、精選し、計画的、意図的に発問する。

○ 導入時の発問

- ・ 学級全員が応答できるような発問を用意し、学習内容に対して興味・関心や課題意識をもたせて、学習意欲を高めさせる。

「〇〇について経験したり、考えたりしたことはありますか。」

「〇〇について不思議だな、どうしてだろうと思うことはありませんか。」

○ 展開時の発問

- ・ 考えや思いを深めたり広げたりする発問を用意し、学習を発展させる。

「もしこれがなければ、〇〇はどうなりますか。」

「〇〇と□□を関係付けると、どんなことが新しく考えられますか。」

→ 場面や対象を限定することで、考えや思いが深まります。

○ 終末時の発問

- ・ 学習の結果を整理したり評価したりする発問を用意し、次の学習の方向や生活への適応を明らかにする。

「〇〇について、どんなことが分かりましたか。」

「今日分かった〇〇は、みなさんの生活の中のどんな場面で使えますか。」

☆ 学習を深めるよい発問の在り方

1 簡潔、明瞭であること

- ・ 全ての子どもが考える材料をもっていて、何を考えればよいかが全員に分かる。
- ・ 学習目標に結びついている。

2 広がり、深まり、方向付けがあること

- ・ 想像、対比、批判を促したり、新しい考えを引き出したりする。
- ・ 意図的に相互の意見を対立させて、多様な考え方を引き出す。
「〇〇グループの考えは、その他の全ての場合にもあてはまるでしょうか。」
- ・ 子どもに発問させ、それを学級全体で解決していく。

3 具体的かつ的確であること

- ・ どう考えればよいのかが全員に分かる。
「〇〇ですね。さらに、『しかし』と考えてみたらどうなるでしょうか。」
- ・ 絵や写真、図表などを提示しながら発問する。
- ・ 個を生かす。
「〇〇について、以前熱心に調べたことのある□□さんはどう考えますか。」



※ 発問に見られるよくない例

- ・ 子どもに考えるゆとりを与えないで、次々と問い詰めていく発問
- ・ 一問一答式の発問
- ・ 観点がぼやけている発問 「駅までどのくらいかかりますか。」

☆ タイミングよく、子どもの思考を方向付けるように助言する。

- 態度・方向・目的・方法・技術などについて指導する。

「〇〇に目をつけて、同じ仲間に分けてみたらどうなるかな。」

「〇〇さんの考え方のよいところはどこだろう。」「比べて考えることが大切だよ。」

「今まで勉強したことが使えないかな。前の時間のノートを見てみよう。」

- 学習上のつまずきを明らかにし、適正な判断に基づいて学習の改善を促す。

「あなたのやり方で、〇〇のところをやってみると、どうなるかな。そこがうまくいっている□□の人の意見を聞いて、別のやり方を試してみよう。」

「〇〇のことから考えているね。今度は□□のことからも考えてみよう。」



☆ 学習を深めるよい助言の在り方

1 意識して、暗示・賞賛・激励を

- ・ 子どもの思考に寄り添い、共感的な言葉を使う。

「〇〇がすばらしい。」「〇〇が前回より大きく伸びたね。」

→ 何が、どうよいのか、具体的にほめることが大切です。

「〇〇さんならできるはずだ。」「もっとよくするにはどうすればいいかな。」

2 子どものつばやきを全体に広げて

「今、〇〇さんがいいことを言ったね。みんなにもう一度言ってくれますか。」

3 学習の「仕方」に関することや「内容」に関することやを区別して

- ・ 学習態度や認識について助言するのか、学習内容そのものについて助言するのかを区別して助言する。

4 正しい・間違いだけに焦点を当てないで「誤答から学ぶ」雰囲気づくりを

「惜しかったね。でも、大きなヒントになるね。みんなのために、どうしてそう考えたか教えてくれる。」

5 「ゆさぶる」ことで、知的好奇心の刺激を

- ・ 子どもが確信している「正解」に対して、異論を唱えてみる。

「えっ、本当にそうなの。」「〇〇の場合にも当てはまるのかな。」

- ・ あえて事実と反することを子どもに投げかけ、それが間違っていることに気付かせたり、反論させたりする。

「先生は〇〇と考えるけど、誰か根拠をあげて反論できるかな。」

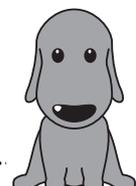
※ 助言に見られるよくない例

- ・ 具体性のない助言 「よく考えると分かるよ。」

「間」は命！

発問や助言の後、「間」をとって考える時間を確保していますか。「間」は、子どもにより緊張感と考える必然性をもたせます。次から次に問いかけたり助言したりすると、子どもはじっくりと考えられなくなります。

わん！ポイント！



I-3 指名の仕方

先生、みんなの前で発言すると楽しい！

☆ 子どものやる気の出る指名をする。

- 顔を見て名前を呼びましょう。
 - ・ 「はい、次」と言われるより、「はい、〇〇さん」と指名された方が、子どもは温かな気持ちになり、学習への意欲が高まります。
- 同じ子どもばかり指名することのないように気を付け、指名してほしいという子どもの気持ちを大切にしましょう。
 - ・ 指名されて発言することで、子どもは授業に参加する楽しさを感じます。



☆ 目的に合わせて、工夫した指名をする。

○ 全員で反復練習する時（ドリル・発声練習など）

- ・ 基礎・基本の定着を図ることができるように、全員に発言の機会を設ける。
- ・ 最初に指名の順番を伝え、一人ずつ指名する間を省くことで、授業にリズムが生まれるようにする。

○ 経験や感想を話し合う時

- ・ 自分なりの意見や考えを発言すればよいことを伝え、挙手しやすい雰囲気を作る。
「思ったことをみんなに話してみよう。」「間違いなんてないんだよ。」
- ・ 易しいことから、少しずつ難しいことに深めていく。

○ 学級の考えを深めていく時

- ・ 指名の順番を考えるために、ノート指導や机間指導を通して、あらかじめ子どもの考えを把握しておく。
- ・ 学習のねらいに迫る考えやその子なりの頑張りを認め、意図的に指名する。
「あの考えを書いていた〇〇さんを指名しよう。」「あのつぶやきを取り上げよう。」

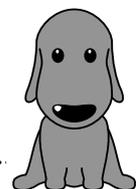
○ 発表が苦手な子どもに自信をもたせたい時

- ・ 読む部分や指名する順番などを伝えて、見通しをもたせる。
- ・ モデルを示した後に指名するなど、発表しやすい環境を整える。

子どもの呼び方は公平に！

子どもの名前を呼ぶ時には、子どもが呼ばれ方の違いに不公平感を感じないように配慮することが大切です。呼び方に差をつけると、「先生に嫌われているのかな？」「〇〇さんは、ひいきされているの？」など、誤解の元になります。

わん！ポイント！



I-4 発言（考え）の取り上げ方

先生、つなげて考えていくことが大事なんだ！

☆ なぜ全体の場で発言させるのか？

- 集団としての学びを高めるだけでなく、個としての学びを高めます。
 - ・ その個の考えが修正され、確かなものとなる。
 - ・ その個の考えのよさが学級全体に認められる。
 - ・ 学習意欲が旺盛になる。
- 個としての学びを共有することにより、集団としての学びを高めます。
 - ・ 友達の意見と比べることにより、一人一人の考えが深まる。
 - ・ 話し合うことで理解が深まり、みんなで考える態度が育つ。
 - ・ 協調的、探究的な学級の雰囲気ができる。



☆ 発言を取り上げ、学級みんなのものにするのは、教師の役割

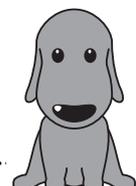
- ① 子どもの発言は顔を見て聞く。
 - ・ 「うーん、なるほど。」「そうかもしれないね。」
- ② 発言のよさを的確に評価し、授業に生かす。(内容、態度)
 - ・ 「〇〇さんの意見とつないで考えたんですね。」
 - ・ 「資料を活用して考えられましたね。」
- ③ 発言に対して、意見を促す。
 - ・ 「〇〇さんの意見について、聞きたいことや、つないで話したいことはありますか。」
- ④ 発言者の考えを他の子どもの思考の材料にする工夫をする。
 - 意見の背景や根拠を考える。
 - ・ 「〇〇さんは、どうしてこのように考えたのでしょうか。」
 - それぞれの意見の相違を考える。
 - ・ 「〇〇さんと□□さんの考えはどこが違うのでしょうか。」
 - 分類して比べる。
 - ・ 「〇〇さんの考えとよく似ているのは、どの意見ですか。」
 - 意見を修正してよりよいものにする。
 - ・ 「〇〇さんの意見をもっと具体的にするには、どうすればよいでしょうか。」
 - それぞれの意見をまとめて考える。
 - ・ 「〇〇さんと□□さんの発言をまとめると、どのようなことですか。」



「教室はまちがうところだ」！

「まちがうことを おそれちゃいけない まちがったものを ワラっちゃいけない まちがった意見を まちがった答えを ああじゃあないか こうじゃあないかと みんなで出しあい 言い合うなかでほんとのものを見つけていくのだ そうしてみんなで 伸びていくのだ」(蒔田 晋治作 抜粋)
友達の発言を嘲笑したり冷やかしたりすることを絶対に許さない姿勢が大切です。

わん！ポイント！



I-5 机間指導

先生、○を付けてくれたので、自信をもって発表できた！

☆ 机間指導は何のためにするのか？

1 (教師) : 40 (子ども) から1:1の学習にする。

子ども一人一人の学習状況を把握し、個に応じた指導を意図的に行いましょう。

教師と子どもの人間関係を深める。

個別に温かい言葉をかけて、丁寧に指導し、信頼関係を築きましょう。

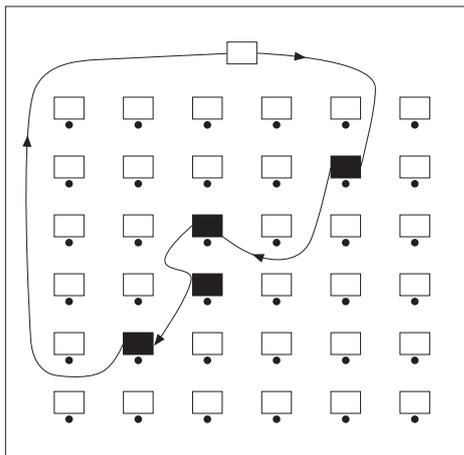
☆ 机間指導の留意点

- 教科の得意・不得意だけでなく、学習意欲があるのに伸びないとか、よく発言するが学習内容が定着しにくいなどの一人一人の学習のようすを把握しておきましょう。
- 上からザッと見渡すのではなく、腰をかがめて、子どもの目線で接しましょう。
- 子どもが安心感と自信をもてるよう、一人一人のよい点を認めたり励ましたりしましょう。
- 一人一人のつまずきや変容を、計画的、継続的に観察・記録し、個に応じた指導に役立てましょう。



☆ ねらいをもって机間指導をする。

机間指導は明確なねらいをもって行うことが大切です。次の例を参考に、日々の机間指導を見直してみましょう。



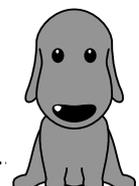
〈例〉ねらい： 普段、発表の少ない4人の子どもが自信をもち、発表できるようにする。

- ① 全員がノートに感想を書いているか確認する。
↓
- ② 4人の子どもに対して、赤ペンでよいところに○を付けて認め、自信がもてるようにする。
↓
- ③ さらによくするために改善したらよい点について助言し、励ます。
↓
- ④ よい感想が書けたことを伝え、みんなに紹介してほしいことを伝える。

1時間に1回は、気になる子どもの所へ！

1時間に1回は、気になる子ども、特に課題を抱える子どもの所へ行って声をかけましょう。日頃反発する子どもも、先生が気にかけてくれていることが伝わり、内心では喜んでいきます。

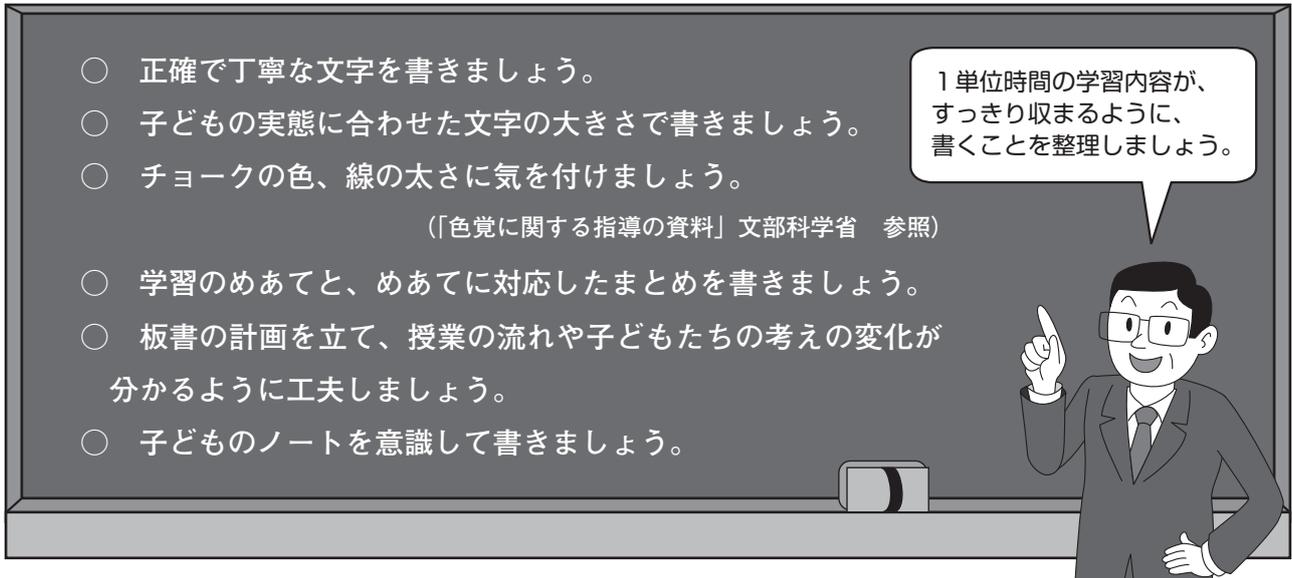
わん！ポイント！



I-6 板書

先生、黒板を見ると、今日の授業が振り返れる！

☆ 「板書の基本」これだけは大切にしよう。



○ 正確で丁寧な文字を書きましょう。

○ 子どもの実態に合わせた文字の大きさと書きましょう。

○ チョークの色、線の太さに気を付けましょう。

〔色覚に関する指導の資料〕文部科学省 参照

○ 学習のめあてと、めあてに対応したまとめを書きましょう。

○ 板書の計画を立て、授業の流れや子どもたちの考えの変化が分かるように工夫しましょう。

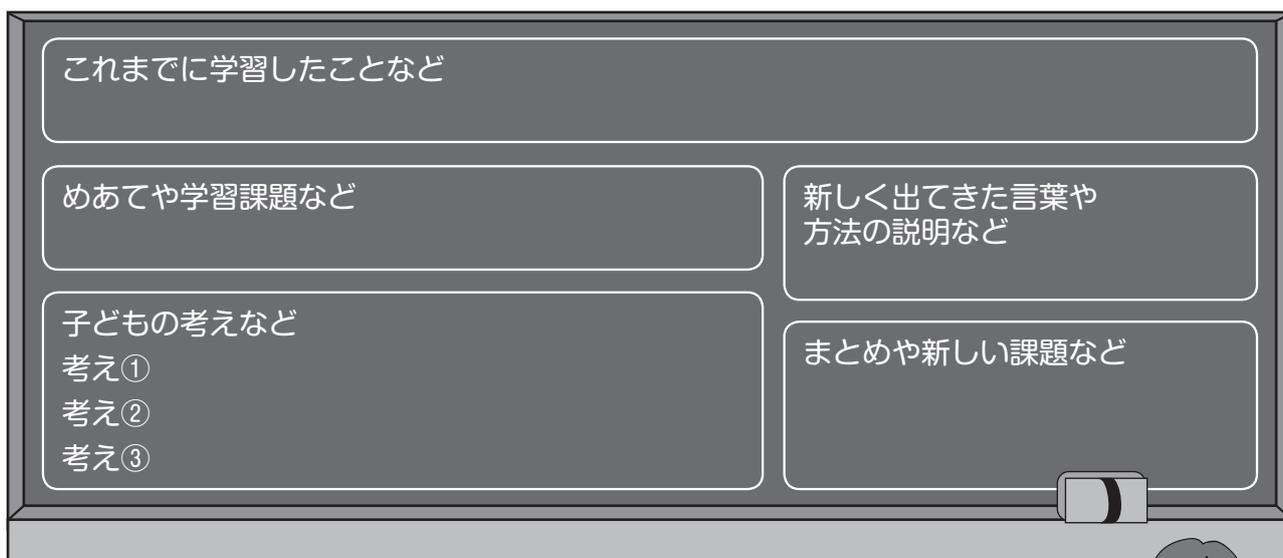
○ 子どものノートを意識して書きましょう。

1単位時間の学習内容が、すっきり収まるように、書くことを整理しましょう。

☆ 目的に合わせて黒板の使い方を工夫する。

- 学習の流れをつかむために
 - ・ 教科や学習内容に応じて、「上から下へ」「右から左へ」「左右対称に」など、見て分かりやすい構成にする。
 - ・ 「学習課題」や「活動のめあて」などを書いて、学習することを確認する。
 - ・ 単元の計画や作業順序などを示して、学習の見通しをもたせる。
- 学習内容を共通理解するために
 - ・ 絵や写真などの資料を用いて、共通に考える材料を示す。
 - ・ 教師や子どもが書いた短冊カードなどを貼ることで、お互いの考えを知り合い、比べたりまとめたりする。
 - ・ 「分かったこと」「まとめ」などを位置付けて、学習の成果を共有する。
- 学習効果を高めるために（電子黒板の活用）
 - ・ 教科書の一部、絵や写真などの資料を、拡大して分かりやすく示す。
 - ・ 学級全員で同じものを見ながら、意見交換の材料としたり、出された意見を書き込んだりすることで、交流活動を活発にする。
 - ・ コンピューターなどと組み合わせて、既習内容や考え方を分かりやすく示すことで、思考の過程を視覚化する。
 - ・ 見学記録や練習の様子などを映像で示し、学習の振り返りやまとめをする。

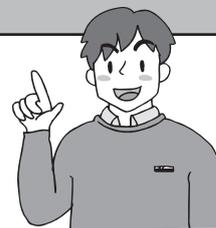
☆ 板書を構造化する。(教科、内容によって様々な形式が考えられる。)



☆ 板書の技術を高める。

- 板書を通して指導しましょう。
 - ・ 文字や記号などの正しい書き方の順序を示す。
 - ・ 絵、図、グラフなどのかき方を具体的に示し、子ども自身がかかるようにする。
 - ・ 各教科等で共通の「自分の考え」「ポイント」「注意点」などを用いることで、考え方のモデルを示す。
 - ・ 必要に応じて板書をパターン化することで、ノートの書き方のヒントにする。
- 子どもが参加する板書で、主体的な学習を進めましょう。
 - ・ 名前磁石などを活用して、子ども一人一人の立場を明確にする。
 - ・ 短冊カードや小黒板、吹き出しなどを活用して、子どもの意見を位置付ける。
 - ・ 教科や学習内容に応じて、子どもに板書を担当させることで、日常的に関わることができるようにする。
- 学習したことの記録として、学習過程や結果が分かる構成にしましょう。
 - ・ 前時までの学習の掲示物を生かして、単元のつながりを意識したり、本時の課題解決の手がかりとしたりすることができるようにする。
 - ・ 書き加えるだけでなく、場合によっては消しながら、学習内容の確認をする。
- 黒板の周りも活用して、学習の効果を高めましょう。
 - ・ 週予定や時間割黒板などを活用して、学習への興味や関心を高める。
 - ・ 前の時間までに学習した内容や、参考になる資料などを背面黒板などに掲示する。

ノートにそのまま書き写せるような構成にすることも大切だね。



子どもが集中できるすっきり黒板！

学習に不要なお知らせやプリントなどは、できるだけ黒板以外の場所へ移すなどして、黒板周辺の掲示物は最小限にし、授業に集中できる環境を整えましょう。

わん！ポイント！



I-7 ノート指導

先生、励ましのコメントがうれしい！

☆ 目的に応じた書き方を指導する。

「ノートに書く」といっても、その目的はさまざまです。「何を書くのか」「何のために書くのか」を明確にさせて、その目的に応じた書き方を指導しましょう。

<目的>

<指導のポイント>

習ったことを書きとめる。

1時間の授業の要点を整理し、後で見直すために書く。

- ・ 要点が整理された構造的な板書をする。
- ・ 大切な語句は、赤や青を使う。
- ・ 解き方や考え方などのまとめの文章は、線で囲む。

考えをつくったり、深めたりする。

予想、調べて分かったことや考えたことなどを書く。

- ・ 「自分の考え」を書く時間をとる。
- ・ 「友達の考え」を書くことで、自分の考えと比べる。
- ・ 「分かったこと」と「考えたこと」は、分けて書く。

練習して定着を図る。

漢字や英単語、計算問題などを繰り返し練習するために書く。

- ・ 「5分間で」「10回ずつ」と具体的に指示をする。
- ・ どこで間違えたか分かるように、思考の過程（補助計算など）も書き残す。

☆ 学びを振り返ることができるような工夫をする。

「前の時間は何を習ったかな？」と聞いたとき、子どもたちは自分のノートを広げて確認できていますか？子どもが振り返ることができるように書き方を工夫しましょう。

○ 振り返るためには、目印が必要！

(例)

12/10
P31

「日付」「教科書のページ」「問題番号」などは、位置を決めて書く。

め

部屋のコミグアイを、たたみの数と人数を使って説明しよう。

自

たたみ1まいあたりの人数でくらべると
A部屋 $6 \div 10 = 0.6$ (以下略)

友

子ども1人あたりのたたみの数でくらべると
A部屋 $10 \div 6 = 1.666\dots$ (以下略)

ま

こみぐアイは、「1〇〇あたり□□」にして考えると、くらべることができる。

「学習問題(学習課題、めあて)」「予想」「自分の考え」「友達の考え」「まとめ」などは、印や書き方を決めて、黒板にも同じように書くとよい。

○ ノートを見直す習慣付け

- ・ 「前の時間に、どんな意見が出ていましたか？ノートで確認してみましょう。」と教師が促すことで、子どもは「ノートを見ればいいんだ。」「ちゃんと書きとめよう。」と思うようになる。

○ 一目で分かるように、間違いは赤で修正

- ・ 漢字や英単語、計算問題などの間違いは、赤で書き直したり解き直したりするようにすれば、後で見直す必要のあるものが一目で分かる。
- ・ 整ったノートではなく、子どもの学びの跡が分かるノートであることが大切。

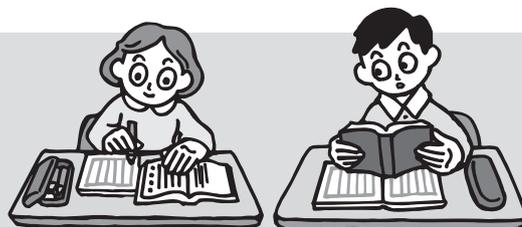
☆ ノート指導を通して、子どもの学ぶ意欲を高める。

ノートは子どもが自分のために書くものですが、学ぶ意欲を高めるためには、仲間の承認、教師の助言や励まし、保護者の温かい言葉かけなどが大きな役割を果たします。

○ 授業で子どものノートを活用しましょう。

<活用例>

- ・ 子どもがノートに書いた内容を確認し、学級全体で意見交流が深まるように発表する順番を工夫する。
- ・ 教材提示装置などでノートを大きく写して発表する。
- ・ 互いのノートを見て、意見や感想を付箋に書いて貼る。
- ・ 単元の終わりに振り返りの時間を設け、新たに分かったことや考えの変化を確認することで、子どもが自分の成長を確かめられるようにする。



○ ノートを点検・評価し、助言や励ましの言葉を書き添えましょう。

<例>

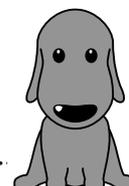
- ・ 子どもの気付きを評価するとともに、他の見方や考え方のヒントを書き添えることで、子どもの考えの深まりや広がりを促す。
- ・ 誤字や記述の誤りの訂正、内容の補足をする。
- ・ 子どもの変容や進歩を見逃さず具体的にほめる。
- ・ ノートの使い方の工夫や学習に取り組む姿勢のよさを具体的にほめる。



保護者にノートを見てもらうときの工夫！

保護者がノートを見たときに、友達からの意見や感想、先生からの助言や励ましの言葉が書き添えられていたら、保護者は日々の丁寧な指導に納得するものです。子どもの取組のよさや考えの深まりなどが伝わるように、ノートに書き添える言葉を工夫してみましょう。

わん！ポイント！



I-8 グループ学習

先生、これはグループだからできるんだ！

☆ グループ学習のねらいを明らかにする。

○ なぜグループで学習するのか、そのねらいを子どもたちと共有しておきましょう。

- ・ とりあえずグループにしておけば、子ども主体の学習になるのではない。
- ・ 教師の手が直接届かない時間・空間を意図的に設けることで、子ども同士の学び合いの力を引き出すことができる。

<ねらいの例>

- ・ 自分の考えを確かにして深めたり、新しい考えに気づき上げたりする。
- ・ 作業、実験、制作、話し合いなどを効果的に行い、学習効果を高める。
- ・ 自由な雰囲気をつくり、発表が苦手な子どもにも学習への積極的な参加を促す。



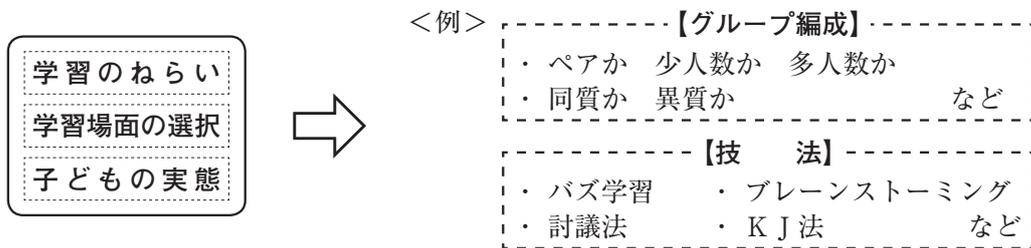
☆ グループ学習によって効果が上がる学習場面を選択する。

<学習場面例>

- ・ 多面的な思考が可能であったり、多様な解釈が必要であったりする場面
- ・ 対話によって、子どもが学習を深めたり、広げたりする必要がある場面
- ・ 多くの発想を出させたり、発想の質を高めたりする必要がある場面

☆ グループを編成し、技法を選択する。

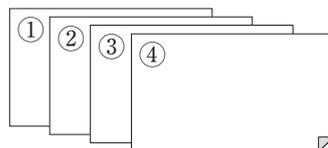
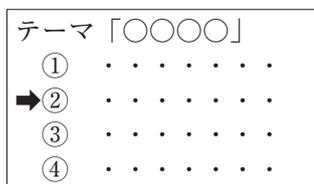
○ グループの編成に定型的なものが存在するわけではありません。学習のねらい、学習場面、子どもの実態などに応じて、最適なグループ編成や技法の選択をしましょう。



☆ グループ学習の効果を高める手立てを用意する。

○ 目的、活動の流れ、話し合っている話題、行っている作業などを、黒板やメモに書くことで、今やっていること、これからすることを、目に見える形で示します。

<例>



○ グループ学習の前後には、一人で考える時間や全体で交流する時間を設定します。

<例>

① 個人学習

- ・ 学習課題を明確にし、それに対する自分の考えがもてるように指導・助言する。
- ・ 一つの考えだけでなく複数の考えをもったり、筋道立てて自分の考えを話したりできるように、十分な時間を確保する。

↓

② グループ学習

- ・ グループ学習の目的を確認する。
- ・ 異質な考えをもった少人数のグループを、教師が編成する。
- ・ 進行、記録など、グループの中での役割を決めておく。
- ・ 多くの考えを出せるように、ブレインストーミングを設定する。

↓

③ 全体交流

- ・ グループで話し合ったことを、全体に伝える場をもつ。
- ・ 考えを比較しながら交流できるように、視点を明確にする。

↓

④ 個人での振り返り

- ・ 自分の考えの深まりや広がりを書き出すことにより、変容を確認する時間をつくる。

自分の考えを順番に言うだけで終わっていませんか。

グループ学習の目的は何かを意識して、意見を聞いてどうするのか大切です。



○ 役割の決め方、発言の順番、話し方・聞き方などを工夫します。

<例>

- ・ 司会者（進行）、記録者などを交代制にして、すべての子どもに機会を与える。
- ・ 初めのうちは、発言の順番を決めておく。
- ・ 初めのうちは、自分の考えの話し方と友達の考えの聞き方を、定型化する。
 - 発達に応じて、話し方・聞き方の定型を子どもたちと一緒に作る。
 - 発達に応じて、型にとらわれない話し方・聞き方を促す。
- ・ 困ったときは、教師に相談するように、前もって伝えておく。

発表する順番は、

次の司会は、

話す時は、

どんな聞き方をすればいいでしょうか。

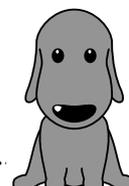
困ったときは、



必然性のあるグループ学習！

豊かな学習は、子どものつぶやきやつまずきから生まれることが多いものです。グループ学習は、それを一斉学習よりも高い確率で実現する可能性をもっています。一人一人のつぶやきやつまずきを組織して授業を展開するために、まずはグループ学習に取り組む子どもの反応を丁寧に予想することから始めましょう。

わん！ポイント！



Ⅱ-1 「考える力」を育てる指導

先生、そう考えるといいんだ！

☆ 子どもの課題意識を高める。

- 考えたい課題や考える必要感のある課題を子どもが見つけるように、考えるきっかけとなる教材（事実やデータなど）提示の仕方を工夫します。

「ノートに好きな形の三角形ABCをかきましょう。次に、辺AB、辺ACのそれぞれ中点P、Qを結ぶ線分をかきましょう。自分の図をみてどんなことがいえそうですか。」

「PQとBCが平行になっています。」

「PQの長さがBCの半分になっています。」

「僕の図でも同じことがいえそうです。」

「私の図でも同じことがいえそうです。」

「みんながかいた三角形はそれぞれ違うのに、2つの共通なことがいえそうなんだね。でも、三角形は他にもたくさんかけるね。どうやって調べればいいのかな。」

・・・

「そう、証明だね。証明すれば、どんな図形の場合でも説明したことになるね。」

- 課題解決のために取り組む学習活動を明確にします。

<課題例>

- ・「北の空にある星の動きは、南の空の星の動きとどのように違うのか見付けよう。」 小4理科
- ・「三角形の中に平行線をひいた図形の辺の長さの関係を説明しよう。」 中3数学

☆ 子どもが自分の考えを表現する場を設定する。

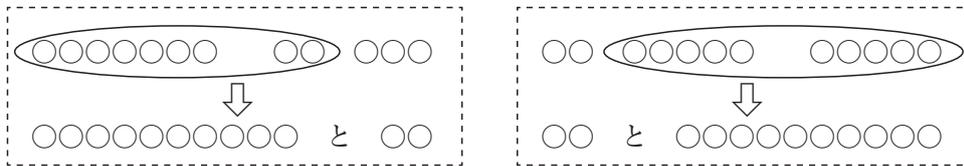
- ノートの使い方（何をどこに書くのか）を具体的に指導します。
<例> 最初の考えと交流後の考えの変容が分かるように記号などのルールを決めます。
- ヒントカード、教具などを個に応じて渡して助言します。
- 前時までの子どもの表現物を振り返るよう助言します。
- 今までに学習した方法が使えないか振り返るよう助言します。
<例> 「前の時間の図や表が使えないかな。」
- 自分の得意な方法で表現するよう助言します。

☆ 「考える力」を育成するための言語活動を充実する。

<例1> 比較

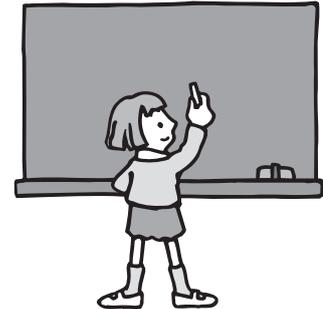
2つの事象を比較して異同を考える。

(小1・算数) 「7+5」の計算の仕方を具体物を使って表す活動



指導のポイント

- ・ どのように考えたのかが分かるように、数図ブロックなどを動かしながら話をする学習活動を設定します。加数分解と被加数分解の違いを認識するとともに、2つの方法とも10のまとまりをつくっているという共通点に気付くことができるように、数図ブロックなどの動きをよく見て比べよう助言することが重要です。



<例2> 因果

事象間の原因—結果の関係を考える。

(中1・社会) 鎌倉幕府が元の襲来を撃退できた理由を資料を基に考え、カードに書き出して説明する活動

暴風雨

御家人の活躍

元軍の上陸を防ぐ石塁(防塁)

元軍の内紛

指導のポイント

- ・ 文献、絵図、統計などの資料の中から必要な資料を選択する場を設定します。資料からいくつかの理由を見付け出し様々な角度から考察できるように、資料を見る視点を示すことが重要です。

<例3> 条件

条件を変えることによって、2つの事象間の関係を発見する。

(中2・理科) コイルに磁石を出し入れた時のコイルに流れる電流の大きさを調べる実験を行ったことをレポートにまとめる活動

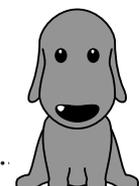
指導のポイント

- ・ 実験の条件を変えた時に、誘導電流がどのように変化したのかが分かるように、表などにまとめてレポートを作成するよう助言することが重要です。

「考える力」を育む言語活動の充実！

ただ言語活動を設定すればよいのではなく、付けたい力は何なのかを見極めていく必要があります。そして、各教科などの特性に応じて、自ら課題を見付け、追究していく過程に、言語活動を適切に位置付けていく必要があります。

わん！ポイント！

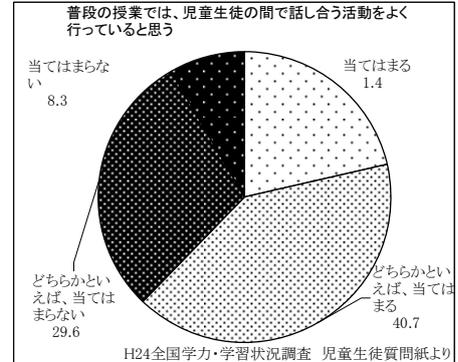


Ⅱ-2 「話し合う力」を育てる指導

先生、話し合うと考えが深まった！

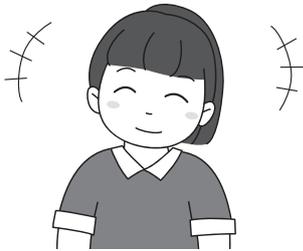
☆ 香川の子どもは話したがっているのか？

右のグラフは、「普段の授業では、児童生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思う」の結果です。この結果から、もっと話し合い活動をしてみたいと感じている子どもの姿が浮かんできませんか。



☆ 話し合うことは大切なのか？

教師自身が話し合うことの大切さを、きちんと認識することが大切です。



話し合うことの効果

- 授業に主体的に取り組めるようになる。
- 話すために、相手の言うことをよく聞く態度が育つ。
- 相手に意図を伝えるために、論理を組み立てる力がつく。
- 話すことによって、物事の理解が深まる。
- 相手の話によって、自分の意見を修正する力がつく。 など

話し合うことには、様々な効果があります。また、話し合い活動を取り入れることで、話し合う力はついていきます。

☆ 話し合いが成立しない授業

話し合いが成立しない。話し合う力がないのではないか。その原因を子ども側と教師側から見てみましょう。こんな授業を見たことはありませんか。

子ども側

- 教師や友達の話を聞いていない。
- 自分の話すことがまとまっていない。
- 友達の発言を冷やかす。



教師側

- 授業中によくしゃべる。
- 発言を取り上げず、「もうない」「ほかに」という発言をする。
- 静かになっていないのに発問する。

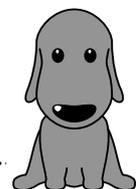


これでは、話し合う力を育てるところか、発言すらできない子どもがいてもおかしくありません。

話し合い活動の時間の確保！

「話し合い活動をしたいけれど、授業時間が足りない。」と感じている人もいます。しかし、話し合うことの効果を考えて、ぜひ行いたい活動です。そのためには、小・中学校の学習指導要領を再確認し、既習内容の整理と時間配分の見直しなどを工夫しましょう。

わん！ポイント！



☆ 聞くことから始める。

相手の話している内容が分からなければ、話し合いにはなりません。活発な話し合い活動にするために、まず、聞くための指導をしましょう。

- ＜例＞ ・ 話している人がいるときには、途中でさえぎらないで、最後まで聞く。
・ 大事だと思うことは、メモをとりながら聞く。



☆ 話し合いの課題を明確にする。

自分の意見をもてば、話したくなります。でも、何を考えればよいか分からなければ、自分の意見をもつことはできません。話し合いとなるような具体的で分かりやすい課題を設定しましょう。

☆ 話し合いが苦手な子どものためにひと工夫する。

○ 既習内容の理解が不十分な子ども

友達の話していることが分からない…

- ・ 話している内容について、教科書やノートのどこに書いてあるのか、黒板などに書いておきましょう。

課題がどの内容に関連するのか分からない…

- ・ 黒板などに既習内容のまとめを書いておきましょう。

○ まとめるのが苦手な子ども

考える時間が足りない…

- ・ 5分の説明よりも、1分の沈黙で自分の意見をもつ時間の確保をしてみましょう。

どうまとめればよいか、分からない…

- ・ 文型の提示や個別説明、適切な接続詞を入れるなど、手助けをしてみましょう。

○ 人前での発言が苦手な子ども

自分の発言に自信がもてない…

- ・ 安心感と自信をもてるように、教師が子どもの発言にうなずいて（肯定的表現）みましょう。

大きな声で発言するのが恥ずかしい…

- ・ 教室内で、その子から最も遠いところに立つようにしてみましょう。

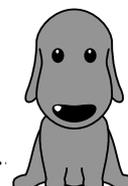
大勢の前で発言するのが恥ずかしい…

- ・ 1対1、4人程度、10人程度、学級全体と段階を追いながら話し合い活動を行ってみましょう。

安心して発言できる雰囲気！

子どもたちが、のびのびと活発に「話し合い活動」を行うためには、自分の発言を肯定的に受け止めてくれる学級の雰囲気が必要です。巻末の「学級経営チェックリスト」を活用して、学級経営を工夫してみましょう。

わん！ポイント！



Ⅱ-3 個に応じた指導

先生、その方法、私にぴったり！

☆ 目の前の子どもを意識することが基本

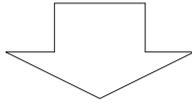


どんなに素晴らしい内容でも、目の前の子どもに合ったもの（内容、方法）でなければ、確かな学力の育成は実現できません。ここでは、授業の流れに沿って「個に応じた指導」について確認しましょう。

☆ 授業を行う前に子どもと教材をしっかり把握

① 子どもの実態を的確にとらえる。

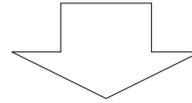
- ・ 子どもの興味・関心は？
- ・ 学習の理解に関する状況は？
- ・ 生活習慣や家庭生活の状況は？
- ・ 子どもの能力や特性は？



- 意識調査などを活用する。
- これまでの授業記録などを活用する。
- 連絡帳や生活記録を活用する。
- 日常の観察記録などを活用する。

② 教材についての理解を深める。

- ・ 子どもに捉えさせたい内容は？
- ・ どのように出会わせるか？
- ・ どんなところでつまづくか？
- ・ どんな考え方ができるか？



- 学習指導要領の内容を確認する。
- 驚きや疑問を引き出す導入を工夫する。
- 具体的な子どもに当てはめて考える。
- 多様な考え方を準備する。

まずは子どもと教材をよく知ることがスタート。
客観的な調査記録はもちろん、教師間の何気ない会話からの情報や子どもからの情報を集めておくが大いに役立ちます。
指導内容についても、教師間での情報交換からいろいろな刺激が得られます。一人で抱え込まずにみんなで実践。



☆ 授業の中では、子どもの反応に応じた工夫をする。

導入時

- 子どもの様子が変わったことは？
- 興味・関心を示していない子どもは？
- 課題がつかめていない子ども、見通しが立っていない子どもは？

- 落ち着いて学習に臨めるよう、一人一人の子どもの顔をゆっくり見てみる。
- 子どもにとって意外性のあるもの、認識のずれを感じるものなどを用いて、興味・関心を高める工夫をする。
- 前時の学習内容を確認するような活動を行う。
- ペアやグループで説明したり、確認したりする活動を取り入れる。



授業の導入は最も大切。授業前の準備で対応できること、授業の中で工夫することなどについて、もう一度確認しておきましょう。

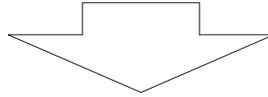
展開時 常に子どもの姿に応じた学習指導を心がけましょう。

子どもの反応に常に注意

- ・ 動きの止まっている子は？
- ・ きょろきょろしている子は？

ねらいをしぼった机間指導→P 7

- ・ 全員をチェック
- ・ 気になる子どもを確認 など



授業での子どもの実態を見ながら、さまざまな手立てを講じることが大切です。

授業前に計画的に取り組んでおけること

- グループ活動を取り入れる。→P 12
 - ・ グループ編成の工夫（興味、習熟度など）
 - ・ グループ活動のねらいを明確に → 「全員が説明できるようにする」など
- 子どもの状況に応じたヒントなど手立てを用意する。
 - ・ 子どものつまずきに合わせたヒントカードを準備しておく。
（状況によっては、全体や個別で再度確認するなどの活動を行うことも大切）
 - ・ 進んでいる子どもについては、発展的な内容を提供する。 など
- 少人数指導、TTなどの充実を図る。
 - ・ 担当教師の打ち合わせの充実、編成の工夫などを行う。

事前に計画しておくことに加え、その時間の中で臨機応変に対応することも大切。
ねらいは子どもの確かな理解です。



授業の中で臨機応変に対応できること

机間指導などで子どもの状況をよく見ることを通して

- 適切な助言（どこを見るのか、何をするのかなど）をする。
- 内容の理解が進んでいない場合は、再度繰り返し指導する。また、理解できている場合には、発展的・応用的な内容へ指導を進める。

終末時

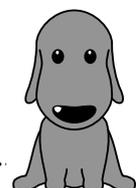
- 学習の定着状況を把握する。
（ノートや作品などの確認など）
- 把握した状況から、今後の指導の計画を見直す。
- 興味・関心を高める工夫をする。

- 家庭学習での課題を工夫するなど、学習内容の定着を確実にする。
- 次時以降の学習における指導方法の見直しや補足的な学習を行うなどの工夫をする。
- 学習した内容をさらに発展させるような問いかけをする。

「子どもを生き生きと成長させるのは教師の適切な助け」！

「学習の主体者である子どもたちは、教師の適切な助けを借りることによって、自分を生き生きと成長させ変化させていくことができるのである。」（斎藤喜博） 教師の適切な助けが、子どもの目を輝かせます。

わん！ポイント！



☆ 学習に関心を示さない子どもへの関わりを振り返る。

○ 興味・関心を高める工夫をしていますか？

授業の最初5分間の有効な活用

- 教師の体験や身近な出来事と絡めた導入
先生の体験談、おもしろそう！
- 前の時間の振り返り
これ、前の時間に聞いたことあるなあ
- できる見通しを持たせる導入教材の工夫
あっ、この問題ならできるかも・・・



ふと、顔を上げさせる工夫

- 道具（教具）や映像の活用
あのビデオ、何かな？見てみよう
- 話し方の変化
あれ？先生の声が小さくなったぞ どうしたんだろう？
- 子どもの語りの場面の設定
〇〇さんが、話しているなあ 聞いてみようかなあ

○ 子どもが活躍できる場はありますか？

子どもの心の声、本音は…

- 話を聞くばかりは嫌（活動欲求） →
- できるようになりたい（達成欲求） →
- みんなに認められたい（承認欲求） →
- 競い合って楽しみたい（競争欲求） →
- 友達と一緒にやりたい（親和欲求） →



教師の工夫（例）

- 実験、実習、体験学習の導入
- 放課後学習などの個別指導
- 子ども同士が認め合う活動
- ゲーム的な要素を含んだ活動
- ペア・グループ活動、子ども同士の教え合い活動



教師の腕の見せどころだね！

○ 「1時間に一度も声をかけなかった…」そんなことはないですか？

- 休み時間に気になる子どもに関わりながら、その流れで授業に入ってみましょう。
- 他の教師との雑談の中で子どものよさを伝え合い、語りかけのきっかけにしましょう。
- 座席の近くまで行き、できていることを見付け、ほめることに努めましょう。



〇〇さん、今日は□□をするよ！

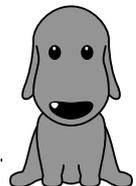
〇〇先生が□□の授業で、ていねいにノートを書いていたと言っていたよ！

今日は、準備物がそろっているね！

子どもを学習に向かわせる多くの教師の粘り強い関わり！

学習に関心を示さない子どもへの対応は一人では難しいものです。多くの教師が関わり、背景にあるものを理解しながら小さな進歩を認め、みんなで賞賛していく体制づくりを図っていきましょう。

わん！ポイント！



授業づくりを支える 学級経営チェックリスト

授業づくりの基盤は学級経営です。目指す学級集団像を明確にして、学級経営の基本的な事柄について、チェックシートを活用して振り返ってみましょう。

私が目指す望ましい学級集団（学級経営方針など）

例 支持的風土をもち、自他ともに大切にす学級集団
規律を大切にし、互いに認め合い高め合う学級集団
目標に向かって、何事にも一致団結して取り組む学級集団 など

4…よくできた 3…できた 2…少し努力が必要 1…かなり努力が必要

| ■チェック項目1 子どもへの関わり | | 前年度 | 1学期 | 2学期 | 3学期 |
|-------------------|--|-----|-----|-----|-----|
| 1 | 時期や指導する子ども、教師の都合などによって変わることはない、一貫性、公平性のある指導を心がけている。 | | | | |
| 2 | 学校行事などに向けてクラス全体で取り組む際、学級集団としての目指す方向（目標）を子どもの意見を取り入れながら明確にしている。 | | | | |
| 3 | 係活動や委員会活動などを通して、一人一人が主体的に活躍する場をつくり、その取組を確実に評価している。 | | | | |
| 4 | きまりの意味やそれを守る意義を子どもが理解する工夫をし、ルールを守っている子どもをしっかりと認めている。 | | | | |
| 5 | 効果的なほめ方になるよう工夫している。（人前でほめる、個人的にほめる、他の教師にも伝えほめてもらう、保護者にも伝える など） | | | | |
| 6 | 教師が評価するだけでなく、子ども同士が相互に認め合う活動を取り入れるなど、支持的風土づくりのための工夫をしている。 | | | | |
| 7 | 休み時間などに、子どもと遊んだり、会話を通して人間関係を深めたりするなど、常に子どもに寄り添うよう心がけている。 | | | | |
| 8 | 気になる子ども（学習面、生徒指導面）に対して、声をかけたり、話を聞いたりする機会を積極的についている。 | | | | |
| 9 | 生活ノートへのコメントや欠席した子どもへの電話連絡及び家庭訪問を継続するなど、一人一人を大切な存在として認め関わっている。 | | | | |

| ■チェック項目2 保護者への関わり | | 前年度 | 1学期 | 2学期 | 3学期 |
|-------------------|---|-----|-----|-----|-----|
| 10 | 保護者の話を共感的に受け止めたり、問題が起こったときだけでなく、ほめるべき事柄など、よい情報も報告したりするよう心がけている。 | | | | |
| 11 | 問題行動が起こったとき、学校の方針を確認した上で、家庭訪問などで保護者と顔を合わせて対応している。 | | | | |



わん！ポイント！

子どもや保護者との人間関係は、築き上げるまでに長い時間がかかる反面、ほんの些細なことから一瞬のうちに崩れることもあります。日頃からの地道な関わりが、学級経営の基盤となる「信頼」につながります。

| ■チェック項目3 同僚との関わり | | 前年度 | 1学期 | 2学期 | 3学期 |
|------------------|--|-----|-----|-----|-----|
| 12 | 互いのクラスの子どもの様子や学級経営の在り方などについて、他の教師と情報交換したり、相談したりしている。 | | | | |
| 13 | 学年主任、生徒指導担当教員、管理職などへの報告・連絡・相談を迅速に、欠かすことなく行っている。 | | | | |



わん！ポイント！

急速に若年教師が増えていく中、ベテラン教師の学級経営の経験やスキルがとても貴重です。会議だけでなく、気軽に学級経営などについて相談し合える教師集団になるよう、「日頃からのコミュニケーション」を大切にしたいものです。

| ■チェック項目4 教室環境などの整備 | | 前年度 | 1学期 | 2学期 | 3学期 |
|--------------------|---|-----|-----|-----|-----|
| 14 | 子ども、教師の言葉が入ったものや、クラスで協力して制作したものなどを活用し、掲示物を定期的に貼り替えている。 | | | | |
| 15 | 目印や表示を工夫し、机・椅子やロッカー内の整理・整頓などについて指導している。（欠席者への配布物なども確実に本人に届けられている） | | | | |



わん！ポイント！

貼り替えられた自分や友達の新しい掲示物を見る子どもの輝いた目……。子どもは、自分たちを大切にしてくれる教師の気持ちを体で感じます。大切にされているという実感は、「問題行動の起こりにくい学級集団」につながります！

チェックリストの活用例

- ①（年度始め）前年度を振り返り、自己診断を行う。
- ②（年度途中）学期の終了時に、同じ基準で自己診断を行う。
- ③（年度末）各項目の点数の推移を振り返り、次年度への改善に生かす。
※ 管理職との面談（目標申告など）においても活用できます。



発刊に寄せて

本冊子は、各教科等の指導に共通する授業の基礎的・基本的な指導技術について解説しています。

しかし、改めて言うまでもなく、学校の日々の授業は、教師の創意と工夫による非常に創造的な営みです。また、授業は教師と子どもたちがともに創り上げるものであることから、教師は同じ授業を人生で二度と行い得ないものです。

そのような観点からは、授業について、こうでなければならないという固定した考え方や必ず正しいという方法があるとは限りません。言い換えれば、授業のあり方は日々進歩発展すべきものであると同時に、本県の教師一人一人が自己の授業の改善を通じて本県の教育向上の担い手となってほしいと考えます。

一人でも多くの教師が、本冊子を一つのきっかけとして、専門的な研究と研鑽を深め、よりよい授業を求め続けていくことを期待しています。

おわりに、本冊子は昭和五十一年に初めて作成された「小・中学校新規採用教職員研修の手引き（現・新しく教員になったみなさんへ）」の内容を踏まえて作成しました。約四十年前に、子どもたちのためによりよい授業を求めて「研修の手引き」を作成された本県の諸先輩方の真摯な実践と日々の努力に心より敬意を表します。

平成25年3月

香川県教育委員会事務局

義務教育課長 鈴木 文孝

さぬきっ子 学びの三訓

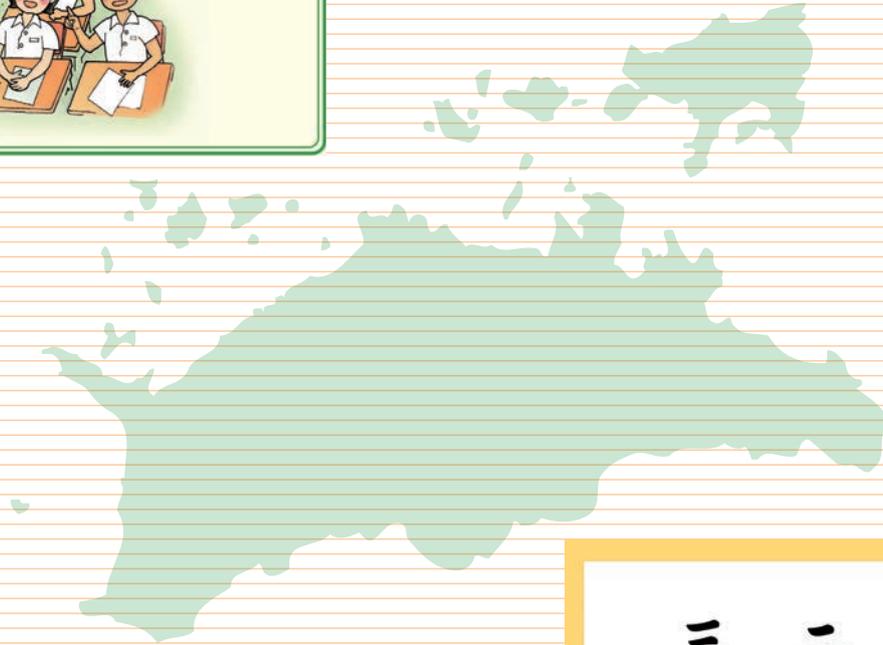
一 準備して

二 姿勢整え

三 しつかり聞こう



香川県教育委員会



さぬきの教員 かかわりの三訓

一 共感的に受け止め

二 チームの力で

三 毅然と粘り強く



香川県教育委員会

氏 名